令和８年度第７回(１１月度)笠松町役員会議録

令和８年11月10日
笠松町内会

＜開催日時＞　令和８年１１月７日（土）19:00～20:00

＜出席者＞　植野顧問・藤田(智)会長・乾副会長・石塚副会長・佐々木会計

藤田(裕)総務・福島会計監査・（１・２・３・５・６・７区）各区長

＜議事内容＞

１．防災訓練の結果と来年度の改善点について報告があり、以下の内容を確認した。

防災訓練は無事終了し、防災機器の展示や体験型訓練など、今後も今回の内容を基本的に継続する方針とした。アンケートは18件で、おおむね好評だった。

新しい防災用品が勉強になったとの意見や、消火器などの体験、子ども向け企画、キッチンカーを評価する声があった。一方、新聞紙スリッパ作りの混雑改善、マンホールトイレの設置場所の周知、訓練中の禁煙を求める意見もあった。

参加者の少なさ、特に小学校高学年から中学生・高校生の参加不足が課題となった。来年度は南実行委員を中心に青年会議所等との連携を検討し、若い世代とその家族の参加を促す。

また、区長と住民の連携を強め、防災訓練以外でも日常的な交流を深める。班長の参加率は64.4%で、区による差があり、参加の少ない区への働きかけを強化する。

今後の課題として安否確認タオルの掲出と広報の重要性について協議し、来年はタオルの掲出率を高め災害時に支援が必要な世帯を迅速に確認できるよう、目的と使用方法を改めて周知する。

報告のあった班での掲出は約３分の２にとどまった。無事な世帯がタオルを掲出することで未掲出世帯への確認を優先できるため、日常用と区別して保管することも呼びかける。

今回は９月と10月の２度にわたり案内したが、回覧が訓練後に届いた世帯や掲出の必要性を理解していない世帯があった為、来年度は10月中旬をめどに防災訓練とタオル掲出を知らせる専用チラシを全戸配布する。

ホームページでの案内も活用し、将来的にはスマートフォンによる情報共有や報告など、段階的なデジタル化を検討する。

２．秋のクリーン活動について報告があり、以下の内容を確認した。

11月22日９～10時に実施する。雨天は23日に順延し、両日雨天の場合は中止する。

公園や水路周辺の落ち葉・雑草の清掃、老朽化した不要な看板やカラーコーン等の撤去を重点とする。道路表示の汚損、標識やカーブミラーの不具合、不法投棄などは地図に記録し写真等で確認した上で市や警察へ対応を求める。

役員・区長は８時 30 分に各会場へ集合する。区長は無線機を持参し、本部との連絡訓練も行う。清掃用具は用意するが、参加者には可能な範囲で軍手、飲料、タオルの持参を依頼する。終了後役員・区長はごみを分別し、備品とともに回収係へ引き渡す。

今回の参加目標は 180 人で、参加者全員にさのぽ 500 ポイント引換券を配布する。

当日のさのぽカード持参は不要だが、後日、取扱店でポイントを受け取る必要があるため、引換券に記載された交換方法と期限を説明する。

３．タウンミーティング(１０月１９日/元町会館）報告

今年度は千代松市長より以下の２点について説明があった。

(1)市町村合併について

人口減少、少子高齢化、財政や専門職員の確保、老朽インフラへの対応などを背景に、泉佐野市と周辺自治体で合併を検討する動きが報告された。

行政サービスの縮小と人口流出の悪循環を防ぐことにより、住民サービスを維持・充実させることが目的とされた。

(2)「赤ちゃん命のバトン」と内密出産

困難を抱える妊産婦と赤ちゃんを守る最後の受け皿と位置付けられ、その前段階として、相談支援、居場所や食事の提供、出産前後の生活支援を充実させ、安心して出産・子育てできる環境を目指す。

里親制度や特別養子縁組への理解を広げ、住民には相談先の紹介と、偏見や詮索を避けた温かな見守りを求める。

出席者より、民生委員や社会福祉協議会等での理解も重要であるとの意見があった。

又、ゆるナキンの応援についても担当部署より次の通り説明と協力依頼があった。

グランプリ優勝を通じて泉佐野市の知名度や特産品の発信につなげるため、投票協力と、12 月 12・13 日のりんくうでの催しへの来場を呼びかけるとともに、会場でのスマートフォン投票や関連イベントについて、町内のお知らせでも案内する。

４．生活道路の交通安全と今後の予定

今年９月の道路交通法の改正に基づき 30 キロ制限を知らせる電柱巻き表示を町内 15 か所に設置した。

町内入口と町内向けの２種類を掲示したが、りんくう緑地山側道路での速度超過違反が多発している為、警察へ速度取締りを働きかけることとした。

５．その他

次回役員会は12月５日とし、餅つき大会と夜警について協議する。
餅つき大会は12月20日、夜警は26日に実施する。
夜警は１日のみとし、当日午前に実施する子ども向け活動(ミニらいとモルック)でも保護者とともに参加するよう呼びかける。

以上